

収穫・芸術にぎやかに堪能

むろね産業文化祭

むろね産業文化祭は11月10、11の両日、室根きらめきパークを会場に催され、農産物品評会や工業まつり、健康マラソン大会、郷土芸能発表会などが行われ、盛りだくさんの内容で収穫と芸術の秋を満喫しました。

恒例のもちつき体験では、室根石で作ったうすを使用し、来場者につきたてのもちが振る舞われ、長蛇の列ができるほどの人気を博していました。森と海の物産フェアでは、市内7地域、平泉町、藤沢町、北海道根室市の物産展や友好都市の埼玉県吉川市、宮城県気仙沼市の特産品コーナーが設けられ、来場者はにぎやかな雰囲気の中で買い物を楽しみました。



室根石のうすでついたもちが振る舞われました



力を合わせて掘りあげた「ツルクビ」に大満足

水害に負けずすくすく

在来種サトイモ「ツルクビ」大豊作

鶴の首のように細長い子芋が付き、水分が多く粘り気の強い在来種サトイモ「ツルクビ」を復活させ、地域の特産品にしようと、かわさき鶴の芋研究会(千葉秋子会長・会員10人)は今年から市の地域おこし事業を活用し、10㏍の畑で種イモ栽培を手がけました。

快晴となった10月24日、門崎小1、2年生30人はツルクビの収穫を体験しようと畑を訪れ、背丈ほどもある芋茎の下に鈴なりとなったサトイモを会員と一緒に少しずつ丁寧にスコップで掘りあげました。

収穫作業は11月上旬まで行われ、種芋として保存するほか、10月31日には関係者向けの試食会も行われました。

晩秋の空に掛け声響く

秋の花泉互市開催

花泉互市は11月1日から3日まで、花泉駅前中央通りで開かれ、鉢花や植木、おけ、竹細工、刃物などの伝統工芸品、たい焼きなどのスナック、地場産物など約80店の露店が500mの通りに立ち並び、親子連れからお年寄りまで多くの人出でにぎわいをみせました。「農作業もひと段落」と話す農家の人は、これから植える春野菜のタマネギやキャベツなどの苗を品定め。店主や周りのお客さんと上手な植え方など会話を楽しみながら買い求めていました。

藩政時代からの歴史がある互市は、春と秋に開催されています。



にぎやかな通りで野菜の苗を品定めする買い物客



馬上の華やかな花嫁に、沿道から次々と祝福の音が

古式ゆかしく花嫁道中

華やかに「むかさり」行列

昔の花嫁道中を再現した「むかさり」は11月3日、巖美町内で行われ、華やかな行列が市博物館から自然休養村管理センターまでを練り歩きました。花婿、花嫁にふんしたのは大澤誠さん(28)＝長野県上田市出身＝、三浦夕子さん＝市内巖美町出身＝。二人は10月に入籍し現在は東京に住んでいますが、夕子さんの祖父、故義一さんが第1回のむかさりにかかわった縁もあって参加を決めました。

沿道からの「おめでとう」の声に馬上からこやかに応えた夕子さんは、「この姿を祖父にも見てほしかった」、誠さんは「(夕子さんは)いつにも増してきれいです。一生の思い出になりました」と語ってくれました。

秋のイベント多彩に

まつりin東山

まつりin東山は11月3、4の両日、東山総合体育館を主会場に文化祭、農業祭、畜産まつりの統合イベントとして催されました。

文化祭では書道や華道、手芸工芸、絵画などの作品展や茶会、バザーを開催。農業祭では農産物品評会や展示即売会などが多彩に繰り広げられました。いわて牛の販売・試食をメインとする畜産まつりでは来場者に芋の子汁が振る舞われ、熱々の秋の味覚に舌鼓を打ちました。太陽と風の家では宮城県栗原市栗駒町の県指定文化財「正藍染」を受け継ぐ千葉よしのさんの藍染展を開催。伝統の技に、訪れた人たちは足を止めて見入っていました。



丹精込めた作品が展示された文化祭

まちのトピックス

地域で開催されたイベントや身近なできごとを紹介します

in Ichinoseki

待ちに待った初滑り

千厩アイスアリーナオープン

屋内スケート施設千厩アイスアリーナは11月3日、今シーズンの営業を開始しました。オープン当日の無料開放に多くの親子連れや子どもたちが駆け付け、氷の感触を確かめながら初滑りを楽しんでいました。「今年もたくさん滑りに来たいです」と地元の小学生。アリーナ内には元気いっぱいの子どもの歓声が響き渡っていました。

今シーズンの営業期間は来年3月23日まで(定休日は毎週月曜日、月曜祝日の場合はその翌日)。同アリーナでは毎週金曜日の親子スケートデーなど、盛りだくさんの楽しいイベントが計画されています。



今季オープン初日の11月3日、初滑りを楽しむ来場者



体を使った楽しいゲームに大はしゃぎ

手作りの舞台を楽しむ

ワクワクたまてばこ

親子を対象にした人形劇の集い「おはなしだいすき! ワクワクたまてばこ」は10月28日、大東コミュニティセンターで催されました。今年で10回目を迎える集いに、栗原市をはじめ奥州市、軽米町、市内から7団体が出演し、人形劇や影絵をはじめ腹話術やゲームなどを披露しました。子どもたちは人形劇に感動し、不思議なマジックに驚き、体を使ったゲームでは歓声を上げ、楽しいひとときを過ごしました。

ワクワク玉手箱の会会長の藤野静恵さんは「これからも子どもたちに手づくりの温かい文化を伝えていきたい」と話していました。